

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

10/10

論述ブースト No.2

医師志望の動機を"医学の言葉"で書く —— 志望理由書を感じ動談から論証へ

★ 清光学院の講師は、大学教員として何十年もの間、実際の入試答案・志望理由書を採点し合否判定を行ってきた当事者です。「祖父の死を見て医師を志した」という書き出しで始まる志望理由書が採点者にどう読まれるかを、審査側として繰り返し経験してきた。「動機の説明」で終わる書類と「論証」になっている書類の差を内側から知る者が教えるからこそ、この講座は実践的な説得力を持ちます。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医学部総合型選抜・推薦入試の志望理由書

東京大学・京都大学・慶應義塾大学医学部・東京科学大学をはじめとする医学部の総合型選抜・推薦入試では、志望理由書が合否の核心的な要素になる。「なぜ医師でなければならないのか」を医療構造・医学の課題という大学教養レベルの文脈で論証できる書類と、体験談の報告で終わる書類では、審査員（大学教員）の評価に決定的な差が出る。

② 面接・口頭試問での動機説明

「あなたが医師を志した理由を教えてください」という問いは、医学部面接で最初に問われる定番質問である。感動体験を語るだけの回答と、「なぜ医師か・なぜこの大学か・なぜ今か」の三軸で論証できる回答では、試験官（大学教員）の印象が根本から異なる。

③ 医療系小論文のテーマ設定問題

「現在の医療が抱える最大の課題は何か、あなたの考えを述べて」という小論文は、医学部総合型選抜で頻出である。日本の医療構造・地域医療という大学教養レベルの文脈を踏まえた答案と、印象論で書いた答案では評価が大きく異なる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学 推薦・医学部	志望理由書・医療課題の小論文	三軸の論証枠が感動談との差を生む
京都大学 医学部	医師志望動機の論述・面接	医療構造という文脈が論証に深みを与える
慶應義塾大学 医学部	志望理由書・医療倫理との接続面接	「なぜ医師か」の三軸論証が審査員に際立つ
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「なぜ医師を目指すのか」面接・口頭試問	論証として語れる回答が採点者（大学教員）の記憶に残る

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「感動体験を語る」志望理由書は、審査側には「動機の説明」と読まれ、「なぜこの人が医師でなければならないか」の論証にはなっていない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）「なぜ医師か・なぜこの大学か・なぜ今か」の三軸で志望理由を論証できる、（2）日本の医療構造・地域医療という文脈を踏まえた書類が書ける、（3）面接での「動機を語る問い」に体験談だけでなく論証で答えられる、という変化が起きる。

何十年も医学部の志望理由書・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、「感動談で終わる書類」と「医療課題への立場表明として論証された書類」の評価の差が合否を直接左右することを採点者として体感してきた。その実感そのものが、この講座の根拠である。